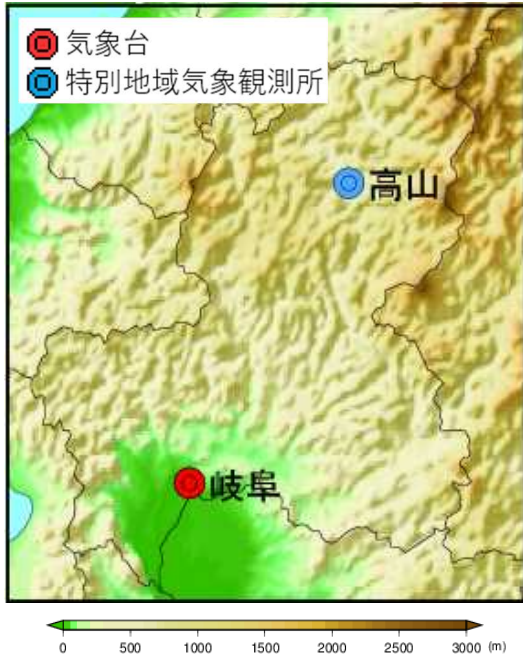


岐阜県



岐阜県の地勢

岐阜県は日本列島のほぼ中央に位置し、周囲を7つの県に囲まれた内陸県で、面積は10,621 km²(全国第7位)である。西は養老山地や伊吹山地、東は木曾山脈や飛騨山脈といった山々に囲まれ、各県との県境はほとんどが山地山脈である。開けた地形は南だけで、平野(標高100m以下)の面積は県土の2割にも満たない。

県北部の飛騨地方は、3,000m級の飛騨山脈をはじめとする山岳地帯で、平地は高山盆地などわずかとなっている。

一方、県南部の美濃地方は、濃尾平野に木曾三川(木曾川、長良川、揖斐川)が流れ、合流域とその流域には水郷地帯が広がり、ゼロメートル地帯も存在する。この水郷地帯では、昔から水害の歴史の連続であった。その反面、現在でも豊富な水資源に恵まれ、多少の乾燥では干害を受けることはない。

このように岐阜県の地形は、海拔0mの平野から3,000mを超える山岳地帯までと、高度差が大きい複雑な地形となっている。

岐阜県の平地地域の地質は、大部分が木曾三川による堆積物からなる沖積層や洪積層で、脆弱なため悲惨な水害や震災に苦しんだ歴史を持っている。また、飛騨川と宮川に代表される河川の流れを太平洋側と日本海側とに分ける「位山」の分



水嶺、長良川と庄川の流れを分ける「ひるがの」の分水嶺等が存在し、岐阜県の地形の複雑さを特徴付けている。このことは局地的に激しい気象現象をもたらす原因となり、土砂災害、なだれなどの災害の要因にもなっている。

岐阜県の気候

岐阜県の気候は、太平洋側と日本海側の中程に位置するため、おおむね美濃地方は太平洋岸気候区に分類され、飛騨地方は日本海岸気候区に分類される。それに加え、全域で内陸性気候区の特徴も併せ持っている。

美濃地方は、平野が多く山に囲まれているため、夏は暑く、冬は寒いうえに、気温の日較差も大きい内陸性の気候がみられる。また、冬には、西濃地方の一部では山越えのため、「伊吹おろし」と呼ばれる冷たく乾いた風が吹き、晴天となることが多いが、強い冬型の気圧配置になると大雪となることもある。

飛騨地方は標高が高いこともあり、年間を通して美濃地方に比べて気温は低くなっているが、夏には、高山盆地などで猛暑日を記録することもある。また、冬は、積雪となることが多い。

地形データにはUSGS(アメリカ地質調査所)のGTOPO30を利用した。